



「貝印」と「アップル」

先日、フォーマルな書類を作成している時にミスをする、消すことはできない書類だったのでカッターで削り、書き直しをしようとしていました。するとある先生が「園長先生、カッターで削るよりこちらがよろしいですよ。」となつかしい貝印のかみそりをそつと出されました。しかもそれに合う消しゴム付きで。

確かに、貝印のかみそりで上質紙を削り差し出された消しゴムで消すと本当にきれいに消すことができました。「日本の伝統のモノづくりすごい！」と思いました。

娘が大学を卒業し、どうしてもその卒業式に参加できない事情があり、どうしたかと思っていると電話が鳴り、テレビ電話でした。卒業式の臨場感と、その興奮が伝わり独り立ちしていく娘の姿に涙を流しました。

以前は忙しい生活に実現できなかったことが可能になった技術の進歩に「アップルのフェイスタイムすごい！」と思いました。涙付きで。

さて、卒園式終了後の祝う会が終わり、あるお母様が私に言いました。

「私は、東京文化の卒業生で、いろいろな事が変化したこの新渡戸文化子ども園に入園し最初は戸惑いもありましたが、今は、本当に心から園を信じて、園長先生を信じてついてきて良かったです。園のおかげで、我が子がここまで育つことができました。感謝してもしきれません。ありがとうございます。」

と、お言葉をいただきました。うれしくてすぐにメモをとりました。宝物のお言葉として大事にしていこうと思います。

「伝統」と「革新」の両方に良い所がありますし、両方にリスクやネガティブな事もあるかもしれません。

しかし、チャレンジ、失敗、時には自信を無くし涙し、しかし思いかえして、軌道修正にあたり、再チャレンジをする。

そこに、「伝統」と「革新」の良い所が融合し、笑顔が生まれるのだと卒園のお子様方や保護者様、そして先生方からも学ばせていただきました。

日本が得意としてきた読み書きそろばんの「認知能力」にも良い所があります。しかし今年度の年長組さんが卒園遠足を全て自分たちで決め（費用、日程、交通手段等々）行っていく新しいプロジェクト型保育に代表される「非認知能力」。豪では、どちらかという「非認知能力」が伝統で「認知能力」が革新でした。

次年度も、何事、両方にチャレンジしていく欲張りな園でありたいと思います。

「ご卒園おめでとう。保護者の皆様、ご協力に心より感謝いたします。」

